

週間火山概況（平成 22 年 2 月 12 日 ～ 平成 22 年 2 月 18 日）

【火山現象に関する警報及び予報の発表状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する警報及び予報の発表履歴（2 月 12 日～2 月 18 日）

発表日時	火山名	警報・予報	概 要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布予想

表 2 2 月 18 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島
	レベル 2（火口周辺規制）	浅間山、三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ケ岳、岩手山、秋田駒ケ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	上記以外の活火山



図 1 噴火警報発表中の火山（2 月 18 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

あさまやま

浅間山【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

噴煙高度は火口縁上概ね 100m で推移した。山頂火口からの噴煙量は 2009 年 4 月以降大きな変化はなく、やや多い状態が続いている。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、2008 年 7 月初め頃からの深部へのマグマ貫入を示す伸びの傾向は、2009 年 7 月頃から鈍化し、最近ではほぼ停滞している。

浅間山では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、山頂火口から概ね 2 km の範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。なお、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では火山ガスにも注意が必要である。

- 1) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風の影響を受ける小さな噴石」のことである。

みやけじま

三宅島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

噴煙高度は火口縁上 100～200m で推移した。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

三宅島では、今後も山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、山頂火口周辺（雄山環状線内側）では噴火に対する警戒が必要である。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では、火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

いおうとう

硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）】

12 日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測及び 13、14 日に行った現地調査では、前回の観測（2009 年 7 月 27 日）と比べて、島内の噴気、地熱等の状況に大きな変化は認められなかった。また、島西部の阿蘇台陥没孔^{あそだいこんぼつこう}では、前回同様、熱水の水位は低い状態で、孔の中ではごく小規模な泥混じりの熱湯の噴出が時々みられた。

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過している。国土地理院の観測によると、2006 年 8 月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動は、現在はほぼ停滞している。島内南北方向の伸びの傾向は継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これまで小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくおかのば

福徳岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報】

12 日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測で、福徳岡ノ場付近の海面に火山活動によるとみられる変色水及び気泡が確認された。なお、噴気や浮遊物は認められなかった。

同海域付近では、2 月 3 日の小規模な海底噴火発生以降、海上自衛隊、海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測で、付近の海面に浮遊物とみられるものと変色水が確認されている。

福徳岡ノ場では今後も海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま

桜島【火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）】

昭和火口では、爆発的噴火が44回発生し、大きな噴石¹⁾が4合目（昭和火口から800～1,300m）まで達した。13日05時49分の爆発的噴火では、火砕流が火口周辺にとどまる程度（昭和火口の南東側約500mの範囲）に流下した。また、同火口では夜間に高感度カメラ²⁾で確認できる程度の微弱な火映が時々観測された。

南岳山頂火口では、噴火は発生しなかった。

16日に行なった現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は1日あたり1,500トン（前回8日、一日あたり1,700トン）と増減を繰り返しながら多い状態が続いている。

噴火に伴う火山性微動が発生している。火山性地震は、17日にやや増加したが、その後は少ない状態で経過している。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による変化が引き続き観測されている。

桜島の昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲では、大きな噴石及び火砕流に対する警戒が必要である。また、風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾（火山れき³⁾）にも注意が必要である。降雨時には土石流に注意が必要である。

2) 九州地方整備局大隅河川国道事務所が黒神河原上流に設置したカメラ等による。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

さつまのおうじま

薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、噴煙高度は火口縁上200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では噴火に対する警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

すわのせじま

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

おたけ

御岳火口では、噴火が断続的に発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね1kmの範囲では大きな噴石¹⁾に警戒が必要である。風下側では降灰及び小さな噴石¹⁾にも注意が必要である。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

とちだけ

十勝岳【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

16日に、振幅が小さく継続時間の短い火山性微動が3回発生し、火山性地震がやや増加した。その後火山性微動の発生はなく、火山性地震は17日以降少ない状況で推移した。微動発生時の山頂の状況は雲のため確認できなかったが、山頂の状況が確認できた時間帯では、噴煙の様子に特段の変化はなかった。火山性微動の発生は、2009年10月27日以来である。

GPSによる地殻変動観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる局所的な地殻変動が認められている。

地震活動、62-2火口の噴煙活動及び熱活動は低調に推移していることから、ただちに噴火する兆候は見られないが、局所的な地殻変動が認められているため、今後の活動に注意が必要である。

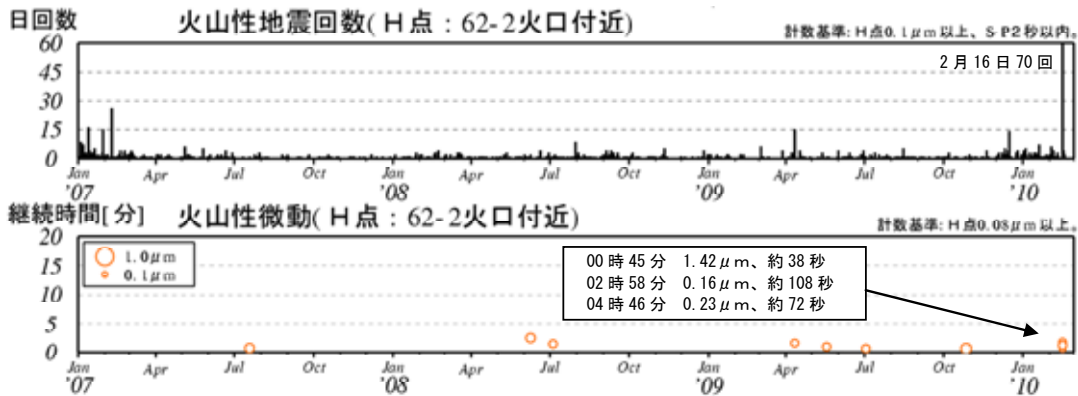


図2 十勝岳 火山性地震と火山性微動の経過グラフ（2007年1月1日～2010年2月18日）

くちのえらぶじま

口永良部島【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

13日から新岳火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返しながら、やや多い状態で推移している。また、振幅の小さな火山性微動が時々発生した。

地震の増加に際し、噴煙等の表面現象や、GPSによる地殻変動観測では特段の変化は認められていない。

口永良部島では新岳火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられないが、火口内では引き続き噴煙がみられることから、火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口付近では火山ガスに対する注意が必要である。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル導入火山		噴火警戒レベル未導入火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4（避難準備）		または山麓嚴重警戒
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険
レベル1（平常）	噴火予報	平常

海底火山については、噴火警報（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：平常）で発表する。